

平成 27 年度 第 6 回 伊勢市地域自立支援協議会 会議録要旨

開催日時 平成 28 年 3 月 24 日 (木) 午後 19 時 00 分～
開催場所 伊勢市役所東庁舎 4-2 会議室
出席委員 浦田宗昭委員、山路克文委員、中井真知子委員、笹山武志委員、山本とみ委員、
岡部浩美委員、丸谷紀子委員、前村裕司委員、松崎まみ委員、斉藤茂委員
事務局 高齡・障がい福祉課長 課長、係長、他 1 名
こども課 (こども家庭相談センター) 1 名
学校教育課 1 名
圏域アドバイザー 1 名
伊勢市障害者総合相談支援センター フクシア職員 2 名
傍聴者 3 名

1. 伊勢市地域自立支援協議会 懇談会

3 月 23 日 (水) に行われた自立支援協議会の活動報告会懇談会についての振り返りを行った。

- ・内容は、会長からの各チーム活動報告および各チーム委員からも想いを語って頂いた。
- ・参加者は、昨年より少ない 64 名。アンケートで 3 割程度分りにくかったという結果

【各委員の主な意見】

- ・資料もスクリーンも字が小さく分かり難かった。
- ・参加者から意見をもらえる時間も取れると良かった。

[事務局]・前回の懇談会にて各チーム委員からも話を聞きたいとの意見があり、今回はチーム委員からも話をして頂いた。資料の見難さ等については、反省し改善していきたい。

2. 各課題別検討チーム会議よりの報告

各チームの会議内容等を事務局より報告し、確認・意見交換等を行った。

●いきいきチーム

「実習制度の創設」

- ・最終的な提案を行う前の試行を行うために、チーム委員より企業に具体的に試行実習について説明と依頼に回っている状況。試行時期はサミットを避けて 6 月としていく予定。試行実習を行う利用者の方についても、チーム委員のサービス事業所利用中の方から決定させて頂く予定。
- ・試行にて、企業意見等も頂きながら、最終的な提案に繋げていきたい。来年度への引継ぎを希望。

「就労版パーソナルカルテ」

- ・上記実習試行の際に、就労版パーソナルカルテも試行をしていく事として、企業への本人理解・障がい理解へと繋げるツールとして活用してみる予定。来年度への引継ぎを希望。

「就労継続 B 型支援利用にかかる就労アセスメントの特例」

- ・就労アセスメントを行う事が合わない方への例外対応を検討するだけでなく、本来のアセスメントを関係機関が協力して行うための体制づくりを検討していく必要がある。来年度への引継ぎを希望。

●せいかつチーム

「地域移行」

- ・様々な課題を乗り越えて行くためにも、ご本人の意思に基づく支援を提供できる事が必要であり、ご本人が意思を形成するための支援、想いを決定してもらうための支援等を検討していくことが重要である事等の確認を行った。
- ・地域移行は、国からも各市町障害福祉計画に位置付けるようにとされている課題であり、来年度への課題引継ぎを希望。

「敷居の低い相談先 + 居場所」

- ・家から一歩出にくい方々が、まず少し社会とつながるための居場所や相談として必要なことを検討し、常時開設し、自由な出入りで、自由な活動、食事提供があり、相談の入り口になる支援者が居ること等が確認された。

「就労継続支援 B 型利用にかかる就労アセスメントの課題から見える必要な取組み」

- ・就労アセスメントの特例を作る議論だけではなく、本来である豊かな生活を送るために、本人も支援者も今後の目標を作っていくためのアセスメント機会となる必要があることを確認した。来年度への引継ぎを希望。

●していますかチーム

「相談窓口の周知」

- ・相談窓口周知のためにどこへの周知が効果的かを探るための相談経路調査について、計画相談の方々の協力を得て来年度に実施していく予定。来年度への引継ぎ希望。

「地域相談支援センター 合同チラシ」

- ・それぞれの地域相談センターのパンフでは分かり難いため、色分けや町名逆引き等の出来る3センター合同のパンフレットの作成を進めており、4月以降に発行の予定。印刷等は優先調達推進法にてB型就労支援事業所に発注を頂いた。

「サービス事業所情報冊子」

- ・サービス事業所の詳細情報冊子について、今回案を示させて頂き了承を確認して、発行へと進めていきたい。
- ・枚数も多いこともあり、配布方法や設置方法等の検討や、定期的な情報更新の体制等についても検討をしていく必要がある、来年度も引継ぎ希望としたい。

【各委員の主な意見】

- ・誰のために作り、どのように活用していくのか等の狙いが必要。
[事務局]・ご本人や家族が情報を得るとともに、相談員等が利用者に分かりやすく説明等をさせて頂くためのものと想定している。
- ・製本ではなくバインダー等で、変更内容を抜き差し出来る方が使い勝手が良い
[事務局]28年度予算を取ってはいないので、まずホームページに掲載等しながら協議していく。
- ・サービス種類別での小冊子版があっても良い。
- ・障害福祉サービス以外の、福祉タクシー等の移動手段等の情報もあるほうが良い。
- ・改定等は、来年度以降に協議を継続することとし、まずは使ってみながら意見を踏まえ検討していく事が重要

「障がいのある方の災害時の支援 情報交換会」

- ・当事者や民生委員やチーム委員等も含め、28名の参加。

- ・参加者より、登録したら情報がどこまでどのように伝わるのか心配で登録できない、登録制度を知らなかった、防災訓練に参加しにくい、負担かけられないので避難支援者を書きにくい等の意見を頂いた。

【各委員の主な意見】

- ・登録者への更新手続き案内にて、自分で逃げられる人は登録自体を見直してもらいたいとの記入があり、知的障がい等があっても身体的には走れる状態等にあるときに、登録継続して良いのかと不安になった。

(事務局)高齢者等で本来支援に回って頂くべき人までも登録をしている現状があるために見直し等の案内になっているが、支援が必要な障がいのある方々には変わらずどんどん登録して頂きたいと考えている。言葉足らずであった。

- ・伊勢市は障がいのある方の登録者名簿は作成しているか？また、それらの活用については日頃から訓練して役に立つようにしておくべきである。中規模災害ではこれらも機能するだろうが、大規模災害時には行政自体が機能しなくなるので、結局必要な名簿があっても渡しようがなくなることも想定される。

(事務局)行政が名簿を作るという法律になっているため避難行動要支援者名簿は作成しており、大災害等の法律で規定された状況になれば活用することになる。また、現状でも登録のある方は関係機関に情報提供をしている。

- ・名簿を活かして個別避難支援計画を作っていくために、現在3地区でモデル的に取り組んでいる。個別避難支援計画の啓発は、高齢・障がい福祉課で取り組んでいる。

●こどもチーム

「こども発達支援室」

- ・前回チームより提案を行い、本会にて協議されて、最終的に自立支援協議会として市長への提案内容の案を今回示させて頂いた。

【各委員の主な意見】

- ・こどもチームからの意見を受けて本会で協議をして以降、会議が無いのに「提案書」が「意見書」と変更になったのはなぜか？その他細かい変更点もあるようだが。

〔事務局〕自立支援協議会の要綱の中では、協議会は課題について協議をするとなっているため、提案より意見の方がふさわしいのではないかという趣旨であった。

協議会は福祉計画の進行管理を任されている中で、こどもの部分に関する取組みが足りないという事を市長に提案をするというものであり、意見ではなく提案である。

妥協案として、意見書に加え、こども発達支援室についての提言というサブタイトルを付けてもらいたい。

- ・虐待ケースや親が疲れ切った家庭崩壊のケース等も、ここに相談に行けばよいのか？どこまでの範囲を担う支援室なのかをはっきりさせる必要がある。
- ・ワンストップ機能とは、様々な相談に対して、門前払いをせず出来ませんではなく、まずは相談を受け止めさせてもらって、相談内容により専門相談等に振り分ける機能がワンストップ機能。他職種連携を前提にしながらも、相談スキルが高い職員が配置される必要がある。
- ・ワンストップ機能や、アウトリーチ、コーディネート、総合相談支援なども、分かったようで分かりにくく、説明を付けないと分かり難いのではないか。

- ・重層的支援、階層的支援の意味が分かりにくいので、例えばという具体例を付けてもらうと良い。
〔事務局〕1次支援は学校現場、2次支援は教育分野チーフコーディネーター、3次支援は発達支援室という名張りの重層的な支援体制を指しての表現であるが、分かりやすく改善する。
- ・文章構成として、一番言いたいことを最初にして、その他はその後に記入するほうが、伝えたい事が伝わりやすいと思われる。
- ・上記意見を踏まえ、最終的な細かい提案文章の文言は会長一任とする。
〔事務局〕会長から市長への提案は3月30日11時半予定。その他委員も可能なら出席頂きたい。

2. 「伊勢市地域自立支援協議会運営の手引き」について

「伊勢市地域自立支援協議会運営の手引き」の作成趣旨および内容について事務局より説明し来年度以降の活用について検討を行った。

- ・今年度で各委員の2年任期も終了し、来年度からの自立支援協議会は大きく変わる予定もしている中で、本来の自立支援協議会の目的等を見失わないように立ち返って確認出来る物として、会長と相談しながら来年度以降活用していくものとして作成したもの。

【各委員の主な意見】

- ・このようなものがあると、委員自身の役割や立ち位置が整理されて良い。
- ・趣旨が簡潔にまとめられたものが最初に記入されている方がよいのではないか。

3. 来年度からの伊勢市地域自立支援協議会について

来年度からの伊勢市地域自立支援協議会について、機能や組織体制、構成委員等について事務局より説明し、確認・検討を行った。

- ・協議会の目的は法律に規定されているものであり、変更なし。
- ・協議会の主な機能として、虐待防止等にかかる検討を新たに加えた。虐待未然防止の議論は地域課題という自立支援協議会の議論と重なってくるものであるため、国の通知にもあるように自立支援協議会で検討を行うこととし、差別解消法における地域協議会の機能も今後の視野に入れている。
- ・協議会の本会の構成委員については、本来自立支援協議会は地域の連携の緊密化を図るために様々な方々と課題を共有することが目的であるため、家族等だけでなく、高齢者のサービス事業所代表や、特別支援学校に加え一般校の校長会代表、弁護士、社会福祉士、警察、ハローワーク等の21人程度で組織する予定。

【各委員の主な意見】

- ・これまで自立支援協議会において大きな課題としてあがっている途切れない支援のためにも、本会構成メンバーに発言力のある教育委員に入ってもらい教育行政とともに検討できるようにすべきである。校長会と教育委員は立場が違う。

〔事務局〕教育委員の経験者にメンバーに入ってもらうように予定はしており、また事務局として教育委員会も入り議論に加わっていると認識しているが、一度持ち帰り検討したい。

4. 障害者優先調達推進法について

障害者優先調達推進法における来年度の目標額等について、事務局より今年度の実績等の報告および来年度の目標額等の案を説明し、確認・検討を行った。

- ・今年度の実績見込み額について、物品は33万円が目標であったが12件約52万円、役務について

も 440 万円が目標であったが 19 件で約 459 万円と、両方ともに目標額を上回る結果となった。

- ・ H28 年度目標額は、物品 33 万円、役務 740 万円とした。
- ・ 上記を目標として推進し、就労支援施設で働いている方々の工賃アップにつなげていきたい。

【各委員の主な意見】

- ・ 上記にて了承。

5. その他

【各委員の主な意見】

- ・ 計画相談という制度も出来て、地域相談支援センターも増加して少しずつ進んできているが、ショートステイが充実するとよいと思う。

〔事務局〕 ショートステイは障害福祉計画でも重点項目としており、来年度に高齢者二見デイサービスを障がい者用に転用する中で、ショートステイを実施する予定ではあるが、今後も努力していきたい。

- ・ 介護保険の新総合事業において、障害分野も含めて検討がされているか？

〔事務局〕 連携はしている。高齢者分野の資源を活用できる部分は障がい者も活用出来るように等の連携を進めていければと考えている。